

群 教 セ	G11 - 02
	平15.213集

# 夢の実現に向け、 自らを高めようとする生徒の育成

- 肯定的な自己理解と「夢ナビ」カードの活用を通して -

特別研修員 岡部 義彦

## 《研究の概要》

本研究は、肯定的な自己理解に基づいた、将来の目指すべき姿を見据えた進路設計と課題解決実践を通して、夢の実現に向け、自らを高めようとする生徒の育成を図ったものである。具体的には、学級活動で意見交換、話し合いを行い、「伸ばしたい自分のよさや可能性」を見出した後、ゲストティーチャーの話を聞き、夢を持つことの大切さや素晴らしさを実感し、「夢ナビ」カードで、夢の実現への対策を探っていく活動を行った。

【キーワード：進路指導 中学校 学級活動 自己理解 進路目標】

## 主題設定の理由

本学級（中学2年生34名）の進路に関する調査結果（6月集計）では、「高校進学希望」と答えている生徒がほとんどであった。将来の夢についても半数近くの生徒が自分の望む職業を持っており、残りの半数の生徒は、「楽しく過ごしたい」「もうかる仕事につきたい」「未定」といったように漠然と将来についてとらえていた。また、生徒が挙げた将来就きたい職業については、「消防士」「役場の職員」「保育士」のような身近なものから、「プロ野球選手」や「レーシングドライバー」といったように、なかなか実現が難しいものまで多様であった。将来の夢であるから、「プロ野球選手を目指す」こと自体は、素晴らしいことであるが、普段の生活ぶりを見てみると、その夢の実現に向かって、今、自分が何を成すべきか、または、どんな力を付けることが必要なのかを具体的に考え、生活している生徒は少ない。授業における学習意欲、家庭学習の状況等をみると、学習面で楽観的に考えている様子が見えなくなる。また、前述の「漠然と将来についてとらえている」生徒の多くは、個人面談の際、自分に自信がなかったり、「自分がどういう仕事に向いているの分からない」、「目標が立てられない」といった不安を抱えていた。中学校卒業後の進路については、「その時期が来れば何とかなるだろう」「今はまだ考えたくない」といった先延ばし型の回答をする生徒も多かった。高校中退者の増加が叫ばれて久しい。また、近年ではフリーターの増加が大きな社会問題になっている。そこで、本学級の生徒には、将来を見据え、自分の夢を持ち、その実現に向かって学び続ける態度を育成していきたい。そして、自分のよさや適性を生かせる職業や生き方を追求していく「生きる力」を身に付けてほしいと考えた。

本研究では、学級活動（話し合い活動）、個別相談、学習カードを使った実践活動と評価の3段階の構成で実践活動を展開した。最初に「自分のよさを見つめる学習」を設定し、「肯定的な自己理解」を深める学級活動を行う。次にゲストティーチャーの話を聞いたり、意見交換を行う活動を通して、夢を持つことの大切さや素晴らしさを実感する。さらに将来の夢の設定と夢の実現へのプロセスを探りながら、自分の将来の夢の達成には何が必要かを考え、自分なりの対策を見つけ出し、その解決のための実践活動を行う。これらの活動を通して、夢の実現に向け、自らを高めようとする生徒の育成を目指していきたいと考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

進路学習において、自分の伸ばしたいよさや将来の夢について考え、ゲストティーチャーの話聞き、「夢ナビカード」を使って、将来の夢へのルート設計と対策の実践を行うことで、夢の実現に向け、自らを高めようとする生徒が育成できることを実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 学級活動1において、「自分」と「友達」の両者から見た「自分のよさマップ」を作成する。自分のよさを意識し、友達に自分のよさを認めてもらうことで、自分のよさに対する理解が深まり、今後、さらに伸ばしていきたいよさが見つけられるであろう。
- 2 学級活動2においては、ゲストティーチャーを迎え、夢の実現に向かって努力し、素晴らしい業績をおさめた人たちの話を聞き、さらに、ゲストティーチャーとの質疑応答や意見交換を通して、生徒は、夢を持つことの素晴らしさを実感できるであろう。  
その後、個別相談を行い、「夢ナビ」カードを使って、「将来の夢」と「夢に向かうためのルート」を考える。
- 3 学級活動3において、「夢の実現への対策」について生活班全員の夢について話し合い、KJ法で項目を分類する。班で話し合い、検討することで、夢の実現に向けた具体的な対策を設定できるであろう。  
放課後等、随時、個別相談を行い、対策設定に対してのアドバイスを行った。
- 4 見通し3を踏まえ、「夢ナビ」のルート作成と具体的な対策（ドリカムプラン）を立て、実践していくことで、夢の実現に向けて自らを高めようとする生徒が育成されるであろう。

## 研究の内容

### 1 基本的な考え方

(1) 「夢の実現に向け、自らを高めようとする生徒の育成」  
「夢の実現に向け、自らを高めようとする生徒」とは、将来、自分がなりたい職業または望む生き方について自分なりの夢を設定し、その実現に近づくため、具体的かつ継続的に学習や生活向上に向けた努力ができる生徒のことである。将来の夢や目標、適性は生徒の成長とともに変化するものではあるが、目標を設定し、その実現に向け、課題解決できる活動を継続して行うことで、変化に対応できる実践力を身に付けることができるようになると思う。

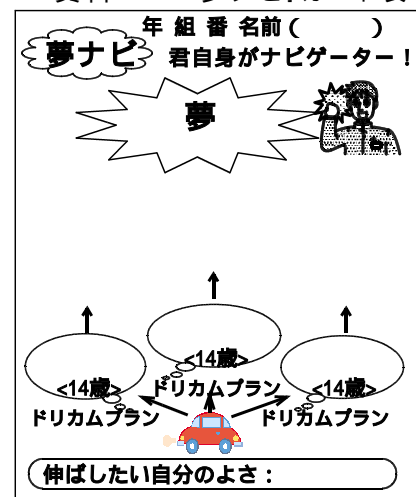
### (2) 「肯定的な自己理解」

「肯定的な自己理解」とは、自分のよさを素直に受け入れ、自己の有用性を理解することとらえる。中学生時期は、「よさ」よりも欠点に目を向けがちであるが、自分のよさを認識し、さらに友達にも認めてもらうことで大きな自信が生まれてくると考える。

### (3) 「夢ナビ」カード（資料1・2）

「夢ナビ」とは、夢ナビゲーションの略で、自分の将来の夢に向かって自分でルートを見つ

資料1 「夢ナビ」カード表



け出していくためのワークシートである。自分の将来設計を自分でしっかり考えて立てていくための一つの方策としたい。夢は、具体的な職業に限定せず、望む生き方等、柔軟に考えてもらう。裏面には、「夢の実現には、今、何を頑張ることが必要か（夢と今をつなぐ現時点での目標）」についての課題解決実践プラン（ドリカムプラン）を考え、期間を決めて実践し、自己評価を行う。実践・自己評価を試行錯誤しながら繰り返し、実践力を高めていく。「夢ナビ」は、他人任せではなく、自分自身が目標へのナビゲーターになってほしいという願いを込めたものである。

(4) 「個別相談」

「個別相談」は、個々の生徒の実態に合わせて、主に担任が助言を行うことであるが、時に友達の助言も参考にしたい。見通し2の後、面談形式で「今後伸ばしたいよさ」に応じた「将来の夢」の設定ができるように助言する。また、「夢ナビ」カードを使って、夢の実現に向かうルート作りと夢の実現に向けた対策の設定を生徒一人ひとりが考えられるよう支援し、実践中にアドバイスを行っていく。

(5) 全体構想図



資料2 「夢ナビ」カード裏

年 組 番名前 ( )

**ドリカム** ドリームSCOMEトクル!

**夢の実現目指し！今、やるべきことは？**

<ドリカムプラン>実施期間 / ~ /

どんなプラン？(何頑張る?)			
どうできたらOKか?			
月/日 (曜日)	でき ばえ	頑張った内容 (具体的に)	コ メ ン ト
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			
/ ( )			
ドリカムプラン で伸びた力は？			

できばえは100点満点で考えて下さい。



見てみると、「自分自身で意識したよさ」と「友達から見つけてもらったよさ」の両方で一致した項目に関して、6割の生徒が「今後、伸ばしたいよさ」として挙げている。このことは、友達から認めてもらったよさが、大きな自信につながっているものと考えられる。また、「今後、伸ばしたいよさ」が、日頃、自分の興味・関心があることや自信が持てると思われる分野とほぼ一致していることで、肯定的に自己理解がなされたと考えることができる。A子のよさマップ（資料7）にも友達から見出された多くの「よさ」が書かれ、感想にも「自分が知らなかったよさ」を知ることができた喜びが述べられていた。今後、伸ばしていきたいよさにも「英語が好きなところ」「部活動にがんばるところ」の2項目をあげ、個別相談では、「計画を立て努力していきたい」と抱負を述べていた。以上のように、自分のよさを意識し、友達に自分のよさを認めてもらうことは、自分のよさに対する理解が深まり、今後、伸ばしていきたいよさを見つけることに有効であったと考えられる。

(2) ゲストティーチャーの話の聞いたり、質疑や意見交換の活動を通して、夢を持つことの素晴らしさが実感できたか。(見通し2)

#### ア 実践の概要

学級活動2では、NHKで放送された「プロジェクトX（日本初のマイカーてんとう虫町をゆく～家族たちの自動車革命～）」で開発に関わった方の話を聞き、感じたこと、疑問に思ったこと等を中心に、ゲストティーチャーと質疑応答や意見交換する活動を行った。TTの形態で、3分の2を講演、残り3分の1を質疑応答と意見交換の時間とした。

#### イ 結果と考察

自動車の製造に関する専門的な話もあったが、事前のビデオ視聴があったことと教師がコーディネーターとして、分かりにくい言葉や内容を再度確認することで生徒の理解の向上を図ることができた。また、ハンドル、サスペンションなど実物（当時作られた本物）を持参してもらい、直接触れることができ、生徒の興味関心がより一層高まった。「夢を持つことの意味は何か」という問いには、資料8のような意見が出され、夢を持つことの素晴らしさについてそれぞれの生徒が真剣に考えた。今まで夢が持てなかった生徒のうち、

資料7 A子のワークシート3より

### ＜自分のよさマップ＞

充実しているとき  
部活中

責任感がある

自身のあること  
負けずマイナなところ。

元氣  
部活に一生懸命

あきらめない所  
部活もがんばる所  
**自分**  
努力するところ

友達思い  
努力している

得意なこと  
バスケット

明るい  
勉強ができる  
まじめに生活している

好きなこと  
英語・数学

スポーツができる。

#### ＜感じたこと・気づいたこと・思ったこと＞

たくさん友だちを見つけてよかった。

勉強はあまりできなくて死んだ。

部活はがんばっている。

元氣はあまりないなあ。

やっぱりこれ！  
私のよさ

今後さらに伸ばしていきたい「よさ」はなんですか。  
英語が好きなところ(英語がわかる)、部活もがんばる所

☆あらためて、自分の「よさ」について考えたこと、思うことを書いてください。

自分の知らないような自分のよさをみんなはいいよさだと思っていてくれて、うれしかった。知らない自分をめぐることができたし、これが自分のよさを生かしていけるからがんばらうと思う。人のよさをもっとみつけたい。

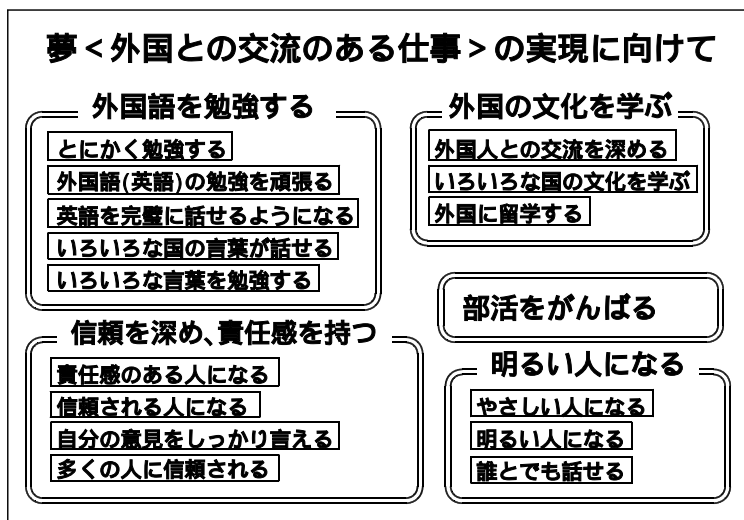
資料8 アンケート(複数回答可)

- 夢を持った方が頑張れて、伸びる (30)
- 夢があればつらくても頑張れる (22)
- 夢を持つと努力しようとする (18)
- 将来に向かって進もうとする意欲がわく (15)
- 将来につながっていくから (12)
- 達成できたときの満足感が大きい (6)
- 夢がないと生きている張り合いが少ない (5)
- 夢は買うことができない。(4)
- 人生が楽しくなる、豊かになる (3)
- 夢があるともっといい自分になろうとする (3)
- 自分が何を頑張ればいいのかわかる (2)
- チャレンジする気持ちがわく (2)     34名



数に上り、クラスの平均は、5.3であった。一番多かった対策は「勉強」、次いで「部活動で活躍する」、「資格を取る」等、具体的に計画性を持って取り組み、成果を上げる項目であった。他にも、「人にやさしく接する」「責任ある行動をとる」「笑顔でいる」等、人との関係に気を配る内面的な内容も多く出された。A子の対策は、資料11のように5つの項立てになったが、班で話し合いを行う中で、仲間からの多くのアドバイスを受けられ、自分の考えと比較をする場面が見られた。5つの対策の価値順位も「将来の夢（外国との交流がある仕事）」と照らし合わせて、自分なりにつけることができ（資料11 内の順）実践する対策として、最終的に「外国語を勉強する」と「部活動がんばる」の2つにしぼることができた。このように、夢の課題解決の対策について、KJ法を使い、班で話し合い、検討することは、夢の実現に向けた具体的対策を設定するのに効果的であったと考えられる。ただ、対策の内容が、具体性に欠けるものもあり、継続して実践可能で、「できた・できない」がはっきり評価できる案に修正していけるよう個別相談を続けていく必要がある。

資料11 KJ法によるA子の課題の図解化



「将来の夢（外国との交流がある仕事）」と照らし合わせて、自分なりにつけることができ（資料11 内の順）実践する対策として、最終的に「外国語を勉強する」と「部活動がんばる」の2つにしぼることができた。このように、夢の課題解決の対策について、KJ法を使い、班で話し合い、検討することは、夢の実現に向けた具体的対策を設定するのに効果的であったと考えられる。ただ、対策の内容が、具体性に欠けるものもあり、継続して実践可能で、「できた・できない」がはっきり評価できる案に修正していけるよう個別相談を続けていく必要がある。

(4) 「夢ナビ」のルート作成と具体的な対策（ドリカムプラン）を立て、実践していくことで、夢の実現への課題に主体的に取り組んでいけるようになったか。（見通し4）

**ア 実践の概要**

見通し3（学級活動2）の後、個別面談を行い、夢の設定と夢ナビのルート、夢の実現のための対策設定を行い、2～4週間を1区切りとして実践と評価を行った。

**イ 結果と考察**

「ドリカムプランで付いた力」として、「自主的に勉強できるようになった」「家庭学習の時間が増えた」「継続して頑張れるようになった」「積極的に人と話すようになった」「本を以前より読むようになった」等の感想が述べられ、自分の課題に対して前向きに取り組んでいる様子が見えた。図1で示されているように、3つの項目（プラン達成度・プラン継続度・夢に近づいたか）についてのアンケートでも、自己評価が上がってきており、生徒は、達成感を持って、プランを継続し、夢に近づいている実感を得ることができたと考えられる。

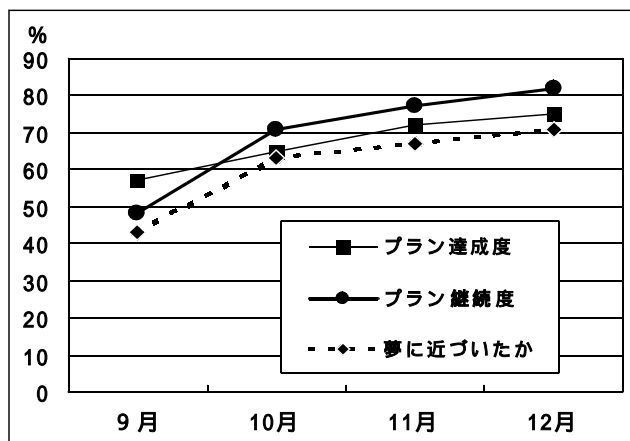


図1 アンケートの自己評価の推移

朝・帰りの会でもドリカムプランの実践の様子や関連した話をする機会を多くし、ドリカムカードにコメントを載せてアドバイスを行ったり、チャンス相談で、プランの改善を促したことで、1回目より2回目、2回目より3回目とより具体的に、実践・評価しやすいドリカムプランに変わっていった。A子は、夢の設定とル

ートの作成、ドリカムプランの設定(資料12)を意欲的に行った。見通し1、2、3と段階を追って、夢に対する自分の考えを明らかにしていった様子が日々の生活の様子や面談から読み取れた。はじめは、英語の力を高めるためのプランのみであったが、2週間後には、自主的に多様なドリカムプラン(学習・部活・係活動)を立て、同時進行で積極的に各課題に取り組む姿が見られた。「夢ナビ」のルート作成と具体的な対策の設定、課題解決のための実践を通して、生徒は、夢の実現への課題解決に主体的に取り組むようになった。以上のように、肯定的な自己理解と「夢ナビ」カードの活用を通して実践活動を行ったことは、夢の実現に向け、自らを高めようとする生徒の育成に有効であったと考えられる。

資料12 A子の夢ナビ裏(ドリカム)一部抜粋

**ドリカム** ドリームスComeトゥル

夢の実現目指し！ 今、やるべきことは？

(ドリカムプランの実施期間：10/00～10/20【2～4週間までの予定】)

どんなプラン？ (これを頑張る)	1日に10分程度毎日英語を勉強する。 読書などの英語でも1時間程度毎日勉強		
どうしたらOKか？	目標を毎日5つ、1週間で35(目標)達成して、最後にテストで、80%取れたら合格。		
月/日 (曜日)	時間	頑張った内容(具体的に)	コメント
10/00	100	読書の単語を5つ	毎日続けたこと
10/00	20	教科書の単語を5つ	毎日続けたこと
10/20	100	システム	継続は大事
ドリカムで頑張った力は？	継続してがんばれる力、 続けて勉強することで、ちゃんと覚えられた。		

☆できれば100点満点で考えてください。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

自分のよさを友達から認められることで自分のよさを実感し、自分のよさを今後、さらに伸ばしていきたいという気持ちが高まった。

ゲストティーチャーとのTTは、コーディネーター(教師)との事前の打ち合わせをしっかり行ったことで、スムーズな進行ができた。また、講演の内容が感銘を与えてくれるものであったこと、今後進路を考えていく時期にタイムリーであったことが成功につながった。

夢ナビカードで夢へのルートを探り、ドリカムプランで夢の実現へのプランを決め、実践することで具体的、かつ計画的にプランに取り組み、自分を高めようとする自覚が生まれた。

個別相談により、生徒一人ひとりの考えを理解し、個に対応した支援を行うことができた。

### 2 今後の課題

夢の持ち方、夢へのルートの作り方は、生徒個々により違う。生徒個々の実態を考慮した個別の支援が重要であり、個々の生徒に応じた的確なアドバイスをすることが大切である。

「夢ナビ・ドリカム」は、今後継続して行っていくが、頂立てや評価の仕方など、生徒の要望を反映させながらより使いやすく、効果の上がるものにしていきたいと考えている。また、1年生から3年生まで継続して行い、将来にわたって有効な進路実践力を育成していきたい。

### <主な参考文献>

- ・鹿嶋 研之助 著 『進路指導を生かす総合的な学習』 実業之日本社
- ・上條 晴夫 編著 『ゲストティーチャーと創る授業 - 招き方からその実際まで - 』 学事出版
- ・國分 康孝 編集 『進路指導と育てるカウンセリング～あり方生き方を育むために～』 図書文化
- ・『中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン』 実業之日本社
- ・『特別研修員研究報告書第200集【学校経営課】』 群馬県総合教育センター(2002)